

スマホ連動のマップ作製

九工大生、3000部を無料配布

飯塚中心部、動画や写真で紹介

オリジナルのマップを作成した九工大
情報工学部の学生たち



九州工業大情報工学部（飯塚市川津）の3、4年生9人が、市内中心部の飲食店などを紹介する「飯塚街めぐりMAP」を作った。若い世代に中心市街地の魅力を伝えようと半年かけて取材、執筆した。スマートフォンをかざせば、写真や動画が画面上に飛び出す仕

掛けも施した力作だ。マップは縦42センチ、横60センチの折りたたみ形。飯塚市中心部の地図上にうどん店や衣料品店、ホテル、自動車学校などを紹介している。インターネットに無料で接続できる公衆無線LANサービス「WiFi」の整備地点も記した。

中心商店街や起業支援施設の紹介文のほかに、飯塚山笠、納涼花火大会などのイベントガイドも掲載。専用アプリを取り込んだスマートフォンをQRコードにかざせば、嘉穂劇場、勝盛公園などの写真や動画を見ることが出来る。マップ作りは、インター

マップにスマートフォンをかざすと、飯塚市の観光地の写真や動画が地図から飛び出てくるように見える



まくいわずに心が折れそうな時もあったが、頭で描いていたものが形になって感激した。多くの人に活用してもらいたい」と話した。

マップは3千部発行。九工大やJR新飯塚駅、商店街などに置き無料配布する。九工大情報工学部・小田部 壮司教授 0948(29)7683。(中島 貞貴)

ンシップ（就業体験）を組み合わせた電子情報工学科の授業の一環。学生たちは昨年10月、北九州市の印刷会社で就業体験した際に出された「地図に付加価値を付ける」という課題に沿って、作製に取りかかった。飯塚観光協会や商店街の関係者に取材を重ねたほか、市内の約130の商店や企業を回り、広告費を集めた。1日30件回って1件しか受注できないこともあったという。メンバーの一人、村社尚紀さん(21)は「う